

## 平成23年度第2回標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会（親委員会）議事要旨

1. 日 時 平成23年 9月 8日（木） 13:30～16:00

2. 場 所 機械振興会館6階65会議室

KEIRIN

3. 出席者氏名 下記 計8名

（委員長）岩本 祐一（コマツ）

（委員）藤本 聡（コベルコ建機）、足立 識之（キャタピラージャパン）、

宮崎 育夫（コマツ）、砂村 和弘（日立建機）、出浦 淑枝（コマツ）

（事務局）西脇 徹郎、小倉 公彦（協会）



### 4. 議題及び審議内容

4.0 開会：委員長挨拶、資料の説明の後、委員長の司会により、議事を進めた。

4.1 SC1分科会活動状況報告：藤本 SC1分科会委員長より、SC1分科会の活動状況が報告された。主要な論点を次に示す。

- **DIS 10987（持続可能性）**：（10月に北京で国際会議が予定されているが）建設業など国内の機械の使用者の意見を求める必要がある。
- **TS 11152（エネルギー資源使用試験方法）**：（上記と連続で10月に北京で国際会議が予定されているが）改訂案文未着で、関係者による事前会合要であるが、予定がたたない不具合がある。なお、日本側出席予定者を固める必要があるが、これも同様事情である。
- **ISO 5006（運転員の視野）再改訂予備検討**：大形機の基準が論議されているが、80 tまでは後写鏡及び補助ミラーで対応可能の見込みであるが、それ以上は問題のもようで、各社に宿題として問い合わせ中である。
- **ISO 16754（履带式機械の平均接地圧）定期的見直し**：国内法令などを考慮すべき旨をコメントして改正又は追補の旨投票、なお ISO 6014（走行速度測定方法）定期的見直しに関しては、投票期限が先であることから今後検討とされた。

4.2 SC2分科会活動状況報告：足立 SC2分科会委員長より、SC2分科会の活動状況が報告された。主要な論点を次に示す。

- **ISO 2867（運転員・整備員の乗降用、移動用設備）**：日本は問題点を指摘して反対したが、圧倒的多数で承認、発行され、案件としては終了、20トン級油圧ショベルでは、手すりなどに対する要求により輸送制限に抵触する可能性がでてくるなど対処が難しい問題がある。
- **CD 3164（たわみ限界領域 DLV）及び DIS 13459（補助席のたわみ限界領域、周囲空間輪郭及び性能要求事項）**：運転員空間に制約がある場合の問題について検討する必要があるが、前者に関しては DIS 待ち。
- **FDIS 3450（ゴムタイヤ式機械－制動装置の性能要求事項及び試験）**：国内法令との抵触の問題、傾斜面での制動能力の問題、二次制動装置の試験の可能性の問題、その他規格の表現含め各種問題を指摘して反対投票とされた（事務局後記：日本のみ反対の圧倒的多数で承認された）。
- **NP 5010（車輪式機械かじ取り要求事項）**：専門家登録要とされた。
- **NP 13649（消火安全）**：いったん取り下げとなり、再度専門家登録要とされた。
- **TR 25398（全身振動）及び ISO 7096（座席振動伝達特性）各改正新業務項目提案**：TR 25398 に関しては、現行版に対して多くのデータを提出しており、なぜ現時点で改正が必要なのか、追加データ要となれば、かなりの試験人工要となりその必要性が納得できないとして新業務項目提案に反対とされた。また、座席振動に関しては、今後検討とされた。

4.3 SC 3 分科会活動状況報告：宮崎 SC 3 分科会委員長より、SC 3 分科会の活動状況が報告された。主要な論点を次に示す。

- ISO/FDIS 15818.2 土工機械—つり上げ及び固縛箇所—性能要求事項：トレーラ側の強度調査などをすすめている旨紹介された。いずれにしても、二次 FDIS 案の固縛箇所への要求が、現状のプラクティスに対して過大であり、また、トレーラ側の強度とバランスしていないなどの問題があるので、担当国として何らかの打開策を講じる必要がある。
- ISO/AW 14990-1 土工機械—電気駆動及びハイブリッドの電子機器及び装置の安全性—第 1 部：通則：現状案文に対する日本意見を 9 月末までにまとめ、担当の米国に提出、11 月のモリーンでの会議に臨むこととされた。（事務局付記：従来案文は IEC 60204-1 からの関連事項の転載があまりにも多いため、著作権及び ISO と IEC の分野区分（縄張り）の面から転載の許諾を受けるのは困難で、同規格からの引用箇条を列挙する方向となるもよう）。

4.4 SC 4 分科会活動状況報告：砂村 SC 4 分科会委員長より、SC 4 分科会の活動状況が報告された。なお、日本担当の案件 4 件に関しては、国内意見確認中である。

4.5 SC 3/WG 5 分科会活動状況：実質担当の土木研究所多忙のため、特に進展無し。

#### 4.6 その他

- 当面の投票案件：前述の如く FDIS 3450（車輪式機械の制動装置）は意見を付して反対、ISO 9244（安全標識）、ISO 15998（電子制御の機能安全）の各定期的見直しは確認の旨投票、ISO 16754（履带式機械の平均接地圧）は国内法令などを考慮要として定期的見直しに改正又は追補の旨投票、DIS 6165（基本機種—用語、識別）はさしたる異議なし、NWIP 6405-1 及び-2（操縦用及び表示用識別記号）改正については今後検討、NWIP/TR 25398（全身振動測定データ）改正に関しては、改正理由不明確として反対、NWIP 7096（座席振動伝達特性）改正に関しては今後検討とされた。
- ISO/TC 127 直属及び各分科会参加の WG 国際対応関係：次の上期報告及び今後の予定に記載。
- 平成 23 年度 ISO/TC 127 土工機械委員会上期報告及び今後の予定：当日資料を論議の結果により若干修正、なお、9 月 22 日予定の標準化会議には、岩本委員長の代理として、砂村 SC 4 委員長（部会副幹事）が出席、要点を事前に事務局でまとめることとされた。

以上

